



おきなわ鉄軌道ニュースは、鉄軌道を含む新たな公共交通システム(以後「鉄軌道」という)の計画づくりの検討状況をお伝えするため、県民の皆さまに配布しています。  
当号外は各市町村役場をはじめとする公共施設等で配布しています。また、各委員会の詳細な検討資料は4ページに示す「沖縄鉄軌道構想段階PIホームページ」より閲覧、ダウンロードできます。

\*\*\*\*\*

お知らせ!



## 沖縄の将来の姿について、 具体的にイメージしてみました!

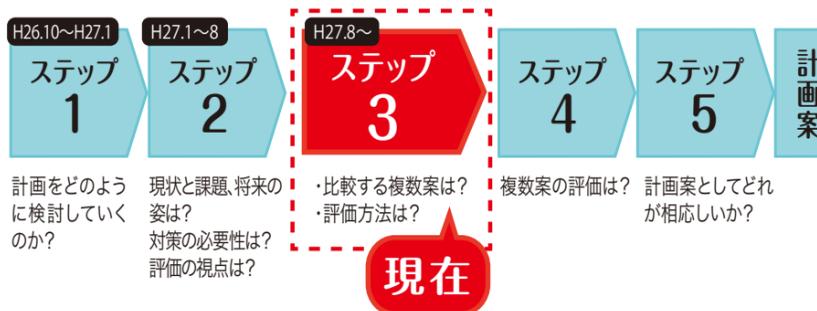
\*\*\*\*\*

### <那覇一名護間を1時間で結ぶ鉄軌道の導入に向けて>

- ★平成26年10月から鉄軌道計画案策定に向けた取組をスタート
- ★平成27年1月に、5つのステップで段階的に検討する計画案づくりの「進め方」を決定
- ★1月からステップ2として、「将来のあるべき姿」、「評価項目」等について検討
- ★8月に開催されたプロセス運営委員会の審議結果を踏まえ、ステップ3の検討に着手
- ★11月から専門家によるステップ3の審議を開始

#### ステップ3で検討する内容

- ・鉄軌道導入も含めた複数の対策案を検討します。
  - ・複数の対策案を今後絞り込むため、ステップ2で検討した評価項目の指標を検討します。
- ※沖縄の将来の姿の具体的なイメージについても検討します。



\*\*\*\*\*

#### ステップ2の成果のポイント

5月に募集したステップ2の検討内容に関する県民意見では、5,167人の方から11,571件のご意見をいただきました。

以下について、県民のみなさまと情報共有が図られました。

- 1 公共交通の利便性や交通渋滞等が課題であること。
- 2 公共交通の利用促進に向けた取組が必要であること。

また、将来の姿及びその実現に向けた対策を段階的に進めることについて期待する意見が寄せられたほか、現在進めている計画検討を根本的に否定する意見はありませんでした。

そのため、将来の姿の実現に向け何らかの対策を講じることは必要であり、引き続き、計画検討を進めることについては、理解が得られたものと判断しました。

しかし、一部の方から、「おきなわ鉄軌道ニュース(第3号)」で示された「沖縄の将来の姿(本紙2ページ左下図参照)」では具体的な沖縄の将来が見えないという意見もありました。

そのような声を踏まえ、将来の姿が実現した場合の私たちの暮らしのイメージを**特集**してみましたので、もう一度、みんなで考えてみましょう。

# 将来の姿が実現した場合の私たちの暮らし

□「おきなわ鉄道ニュース(第3号)」で示した沖縄本島の将来の姿について、観光や経済の振興、交通弱者等の移動手段の確保等を期待する多くの声が寄せられました。しかし、一部の方から、私たちの日常がどう変わるか具体的なイメージが分からない、という声もありました。

□そのため、沖縄の将来の姿を、沖縄21世紀ビジョンで示されている県民が望む5つの将来像から、将来の姿が実現した場合の私たちの暮らしを取りまく環境(社会環境)をイメージした上で、私たちの暮らしをイメージしてみました。みなさんは、どんな暮らしをイメージしますか？

## 沖縄21世紀ビジョン(H22.3策定)において 県民が望む5つの将来像

### 将来像I

沖縄らしい自然と歴史、  
伝統、文化を大切にす島



### 将来像II

心豊かで、安全・安心に  
暮らせる島



### 将来像III

希望と活力にあふれる  
豊かな島



### 将来像IV

世界に開かれた  
交流と共生の島



### 将来像V

多様な能力を発揮し、  
未来を拓く島



## 沖縄県総合交通体系基本計画(H24.6策定)で 示されている沖縄本島の将来の姿

沖縄21世紀ビジョン基本計画(H24.5策定)で示された交通分野に関する基本政策の具体的な構想を示す「沖縄県総合交通体系基本計画」では、**那覇と北部圏域の中心都市である名護との移動時間を1時間とする圏域構造の構築**、「沖縄本島の将来の姿」が位置づけられています。

### 那覇と名護との移動時間を 1時間とする圏域構造の構築



おきなわ鉄道ニュース(第3号)P4「沖縄本島の将来の姿」

## 将来の姿が実現した場合の 私たちの社会環境(イメージ)

### 自然

沖縄の豊かな自然環境を保全しながら、適正な利用が図られている

### 生活

地域の拠点を中心としたコンパクトな都市構造が形成され、歩いて暮らせる環境や渋滞緩和が実現している

住み慣れた地域で県民誰もが、保健、医療、福祉の適切なサービスが受けられる

### 産業

情報通信産業が高度化し、知的・産業クラスターが形成され、環境など沖縄のソフトパワーを活かし新たな産業が創出されている

国際物流ハブ機能を活用し県産品や農林水産物などの輸出が拡大している

### 観光・交流

県内の各圏域間の交流・移動が拡大している

文化・研究等をとおり多様な国際交流が行われている

観光客の多様なニーズに応える観光拠点が多数あり、旅行環境が整備されている

### 教育

公平な教育機会が享受され、多様な人材が育成されている

## 将来の姿が実現した場合の私たちの暮らし(イメージ)



コラム：～ステップ3実施中～専門家による審議～

平成27年12月11日(金)に第3回計画検討委員会(森地茂委員長：東京大学名誉教授・東京工業大学名誉教授・政策研究大学院大学政策研究センター所長)が開催され、沖縄の将来の姿等についての審議が行われました。

- 委員から、①暮らしのイメージではそれぞれのシーンが独立しているが、実際には様々なシーンがまざり合うはずなので、それを表現した方がいい。  
②交通弱者への配慮についてもイメージできるようにした方がいい。  
などの意見がありました。



コラム：路線バスの活性化のために、様々な取組みを行っています。

## バスがかわる、バスでかわる



### ①バスレーン延長

#### バスレーン延長で朝夕の移動時間が短縮!!

平成27年2月2日に国道58号のバスレーンが一部延長になりました。県が実施した測定調査によると、バスレーン延長前(平成26年11月)とバスレーン延長後(平成27年5月)の比較では、朝は約5分のマイナス!夕方はなんと約10分マイナスになりました。



### ③バス停グレードアップ

#### バス停29基、グレードアップ



国道58号を中心にバス停が新しく便利に生まれ変わっています。現在29基が改修され、最終的には全88基のバス停改修を計画しています。バス停名の表記が大きく読みやすくなるほか、バス会社で別々だった運行表をひとつに統一する予定です。



### ②ノンステップバス

#### ノンステップバス120台導入

国道58号を通過する路線と、那覇市内線の一部を中心にノンステップバスの導入が進んでいます。ノンステップバスは、地面との段差が小さく、お年寄りや子どもも乗り降りしやすいバスです。県内では平成26年度までに120台のノンステップバスが導入されました。今後も増やしていく予定です。



### ④IC乗車券の導入

#### OKICA発行枚数11万枚突破!



詳しくは、OKICAのウェブサイトをご覧ください。  
「沖縄を楽しく快適に!沖縄ICカード OKICA」<http://info.okica.jp/>

※平成27年10月末現在  
県内の路線バスとモノレールで利用できるIC乗車券「OKICA(オキカ)」。従来のように小銭を用意する必要が無いので、朝の通勤・通学時もキャッシュレスでスピーディ!OKICAをピッとかがすただけでスムーズに乗り降りができます。貯まったポイントは、運賃としてバスでもモノレールでも使えるので、乗れば乗るほどお得です!



公共交通について学んでみよう! 小学校へ出張授業します! 申し込みは交通政策課まで

### 今後の予定

(予定は変わることがあります)

・平成28年1月下旬(予定)から、現在検討しているステップ3の内容を「おきなわ鉄軌道ニュース(第4号)」として全戸配布し、皆さまのご意見を募集する予定です。あわせて、県内市町村庁舎などでパネル展も開催します(日程、場所は「おきなわ鉄軌道ニュース(第4号)」に掲載)。

ご意見・ご質問・お問い合わせはこちらへ!

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2  
沖縄県企画部交通政策課  
電話:098-866-2045 FAX:098-866-2448  
メールアドレス info@oki-tetsukidou-pi.com

沖縄鉄軌道構想段階PI ホームページ  
<http://www.oki-tetsukidou-pi.com>

リニューアルしました!



沖縄鉄軌道 検索